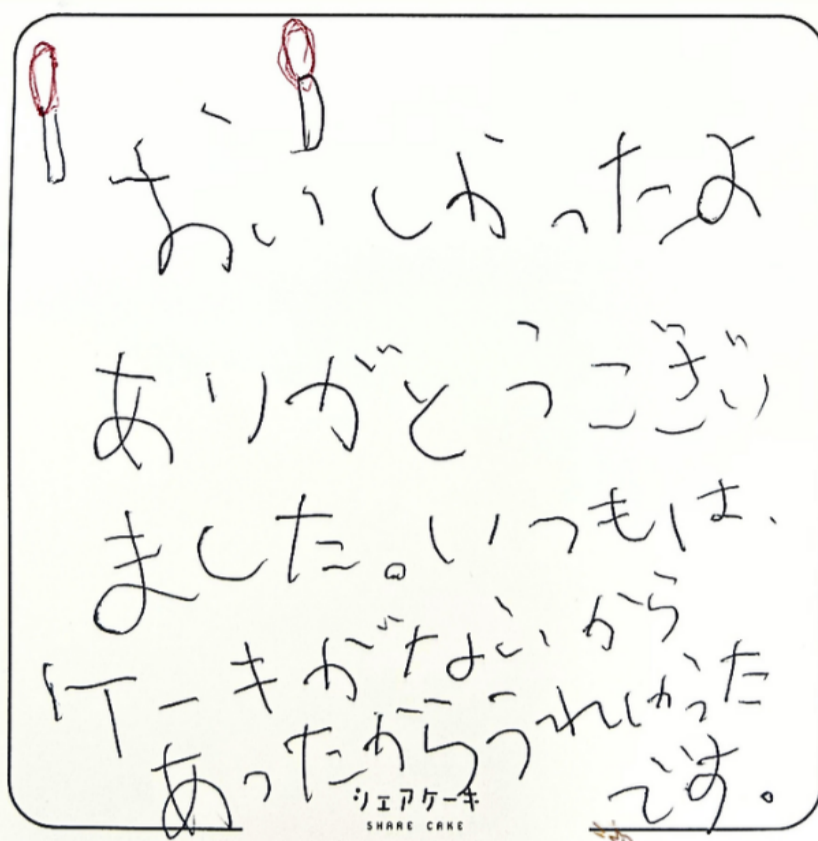


# ケーキを受け取った 子どもの感想

子どもの年齢：3歳



## 届けた家庭の声

### ■シェアケーキ：先月お祝いを届けたご家庭の声を一部ご紹介します。

「家に帰るまでずっと大事そうにケーキの箱を抱えていて、早くハッピーバースデーしようね！と言っていました。

ケーキも安くありません。言ってしまうと、食べなくても死にません。

ですが、一年に一度愛しい我が子の誕生日をちゃんとお祝いしてあげたい思いでいっぱいです。ケーキをいただける支援は本当にありがたいです。

子どもの嬉しそうな顔を見れるのがなにより幸せです。ありがとうございます。」

(子ども：8歳)

「去年は夫が突然亡くなったばかりで、何をしていたのかも記憶がありません。

子どもに聞いても同じ答えでした。

今年はちゃんとしてあげたいと思い、こちらに応募させていただきました。

ケーキをいただき、ケーキが嬉しいのはもちろんのこと、私と子どもだけの寂しい誕生日会の中で、ここにはいないけど、ケーキを作ってくれた方、手配してくださった皆さんにも祝福していただけている気がして、とても温かい気持ちになりました。

本当にありがとうございました。」

(子ども：11歳)

「私のように『生きるだけで精一杯』な世帯にとって、誕生日のようなイベントは、時に大きな精神的プレッシャーになります。

ケーキ一つで、暗かった家庭の空気が一変し、明日への活力が湧いてくる。

このプロジェクトは、単に空腹を満たすものではなく、社会から『あなたたちは独りじゃない』と手を差し伸べてもらっているような、心の救いになっています。

こうした温かい支援の輪が続くことで、どんな環境にいる子どもでも、自分の誕生日を『楽しみな日』として迎えられる社会であってほしいと切に願います。」

(子ども：13歳)

「受験直前の誕生日に余裕もなく、笑顔も見られないまま誕生日が過ぎるのかと寂しい気持ちでいたのですが、ホールケーキを見た瞬間『丸いケーキだ！』と瞳を輝かせ笑う我が子を見てグッとくるものがありました。

もう15歳ですが、ろうそくも嬉しそうに消してくれ、受験頑張る！と決意を新たにしていました。

そしていよいよ明日が入試本番です。誕生日での嬉しい思い出が、入試の活力へととなりました。本当にありがとうございます。」

(子ども：15歳)

「当選したときは、本当に嬉しかったです。

毎日の食事でも頭を悩ませながら、自分の分を減らして何とか回している生活で、ケーキはとてもじゃないけど、手が出ませんでした。

贅沢だと言われれば、受け取る側は、何も言えませんが、幸せな記憶と甘いケーキに癒されて、頑張ろうという気持ちになれたことは、伝えておきたいです。」

(子ども：18歳)

「世の中にはひとり親同様の生活なのに離婚も成立していないまま生活費ももらえず、行政に当てがなくて貧困な家庭もあります。

私は今そうなってしまって初めて知ったことですが、こんなに苦しいのかと思うことが1日に何度もあります。

それでも、大切な子どもの大切な日に一緒にお祝いしたいと思う気持ちや、ケーキひとつで笑顔になれること、一緒に日々を過ごす中で楽しみが少しでもあることがとても幸せなことを、私が娘たちと今の環境に置かれて初めて気づきました。

当たり前なことを当たり前でできなくなった今、このプロジェクト、寄付して下さる方々がいて娘と笑い合えた時間ができたことが感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございます。」

(子ども：6歳)